

ソリューション

Azure用のDenodoプラットフォーム

産業

あらゆる産業に適用可能

製品概要

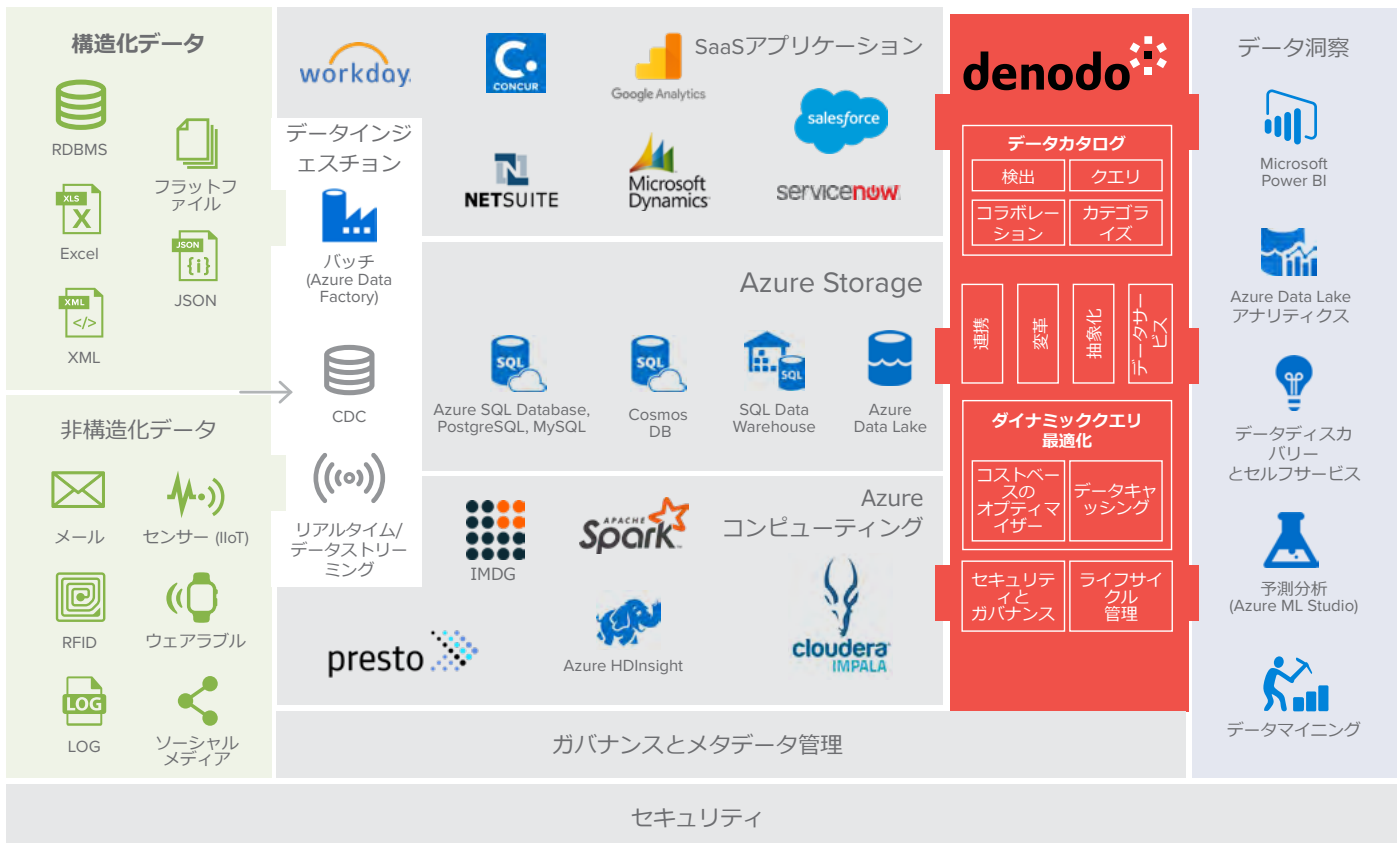
Azure用のDenodoプラットフォームは、クラウドコンピューティング環境における幅広い機能を提供し、これによってハードウェアだけでなく、ソフトウェアやITインフラストラクチャ全体の総所有コストを削減できるようにサポートします。ビジネスアナリティクス、クラウドへの移行、クラウドデータウェアハウスのモダナイゼーションなどの、ハイブリッドクラウド環境におけるいくつかの主要なユースケースについて学ぶことができます。このソリューションブリーフでは、Azure用のDenodoプラットフォームの展開オプションと全体的なアーキテクチャ、および使用開始方法について理解することができます。

Denodoプラットフォームは、データ仮想化のあらゆるメリットを提供します。例えば、組織内全体の多様なデータソースやミッションクリティカルなSaaSアプリケーションにわたり統合されたデータへのリアルタイムのアクセスを提供する能力です。データを複製したり、移動させたりする必要は一切ありません。Denodoプラットフォームは、ビッグデータおよびハイブリッドクラウドアーキテクチャの一部としてのデータ仮想化レイヤーを迅速かつ簡単に、費用効果の高い方法で定義し、作成することができます。データ仮想化レイヤーは、運用やアナリティクスに関するニーズに対応したユニバーサルなエンタープライズリポジトリと同様に機能しますが、データは一切含まれていません。その代わりに、重要なメタデータが含まれているため、多様なデータソースにリアルタイムで接続することができます。

Azure用のDenodoプラットフォームの能力を拡張すれば、ユーザーは、ビジネスに付加価値をもたらす機能の構築に注力できるようになります。信頼性、拡張性、管理性、あるいはレイテンシの問題に対処するために、追加のコードを設計または記述したりする必要はありません。Denodoプラットフォームは、ダイナミックエリオプティマイザー機能により、ビッグデータの実装および論理データウェアハウスにおける画期的なパフォーマンスを提供します。また、セルフサービス型のデータディスカバリーおよび検索機能により、ビジネスユーザーによるデータの使用を促進します。Denodoプラットフォームは、オンプレミスとクラウドのいずれでも最大限の柔軟性を発揮しながら実行されるので、ユーザーは、サービスとしてのインフラストラクチャ (IaaS) プラットフォームのアジリティを得られます。

Azure用のDenodoプラットフォームを構築する場合の検討事項

多くのクラウドイニシアチブにおいて、データの重心とは動く標的のようなものです。オンプレミスから始まる場合もありますが、多くのデータセットがクラウドへ移行するにつれ、Azureへの転換が進む可能性も高くなります。このような



状況では、Denodoプラットフォームは、当初はオンプレミスで展開され、その後にデータがさまざまな場所に分散すると、DenodoプラットフォームはオンプレミスとAzure上の両方に展開されるマルチロケーション展開に移行します。

Azure用のDenodoプラットフォームは、以下の3つの方法により構築できます。

1. Azureデータソースを用いてオンプレミスで展開
2. ハイブリッドのマルチロケーションアーキテクチャで展開
3. Azure上でのみ展開

理論上、データの大部分がAzure上にある場合は、DenodoプラットフォームもAzure上だけに配置することができます。ただし、実際には、データセットやアプリケーションによってはクラウドに決して移行されないものもあるため、Denodoのマルチロケーション展開が強く推奨されます。データの場所の透明性を確保できる等のメリットがあるからです。

Azure用のDenodoプラットフォームの主な機能とメリット:

- ハードウェア、ソフトウェア、およびITインフラストラクチャの総所有コストを削減
- 実際の使用状況に基づく支払い。未使用の容量については支払い不要
- IT環境のプロビジョニングを高速化。新しいIT機能および能力を数分以内に提供
- Azure Cloudは、スケーリングとポータビリティを提供することで、クラウドまたはハイブリッドインフラストラクチャ全体のワークロードをより効果的に管理
- 特定の技術的な問題にリソースを費やすのではなく、ビジネス上の課題への対応に注力することが可能に

クラウドの主要なデータソースへの接続

Azure用のDenodoプラットフォームは、以下のような幅広いデータソースと接続できます。

- **SQL Data WarehouseとSQL DB** (Azure Database for MySQL、Redis Cache、Microsoft SQL Server、PostgreSQL) – SQLDW JDBCドライバまたはネイティブデータベースのJDBCドライバを使って接続します。
- **Azure Databricks、HDInsight** – Apache Hadoop、Spark、Kafkaなどの広く使用されているオープンソースフレームワークを実行します。Databricksは、インメモリのSpark Clusters処理をサポートしています。
- **Blob Storage** – Blob Storageファイルに格納されているデータにDenodoプラットフォームから直接アクセスします。Azure Blobストレージに格納されているCSV、JSON、XML、区切り、およびParquetファイルにアクセスします。
- **Snowflake、Presto** – Snowflakeとは、Azure上で提供されているクラウドベースのサービスとしてのデータウェアハウス (DWaaS) です。Snowflake JDBCドライバを使ってSnowflakeに接続できます。Denodoプラットフォームは、Prestoをネイティブサポートしており、ビッグデータおよびアナリティクスシナリオのデータ仮想化クエリのパフォーマンスと拡張性を向上させます。
- **さまざまなSaaSデータソース** – Microsoft Dynamics 365、Salesforce、ServiceNowなど。

Azure用のDenodoプラットフォームのユースケース

Azure用のDenodoプラットフォームによるデータ仮想化の活用方法については、多くの使用事例が考えられます (特に、Azureのような高度で広範なクラウドインフラストラクチャで使用する場合など)。

Azure用のDenodoプラットフォームにおける主な使用事例としては、以下が挙げられます。

1. クラウドでのアナリティクスと機械学習
2. クラウドデータゲートウェイ
3. クラウドモダナイゼーションとIoT
4. マルチクラウド (またはマルチリージョン) 統合
5. クラウドマイグレーション、アーカイビング、コンプライアンスレポート

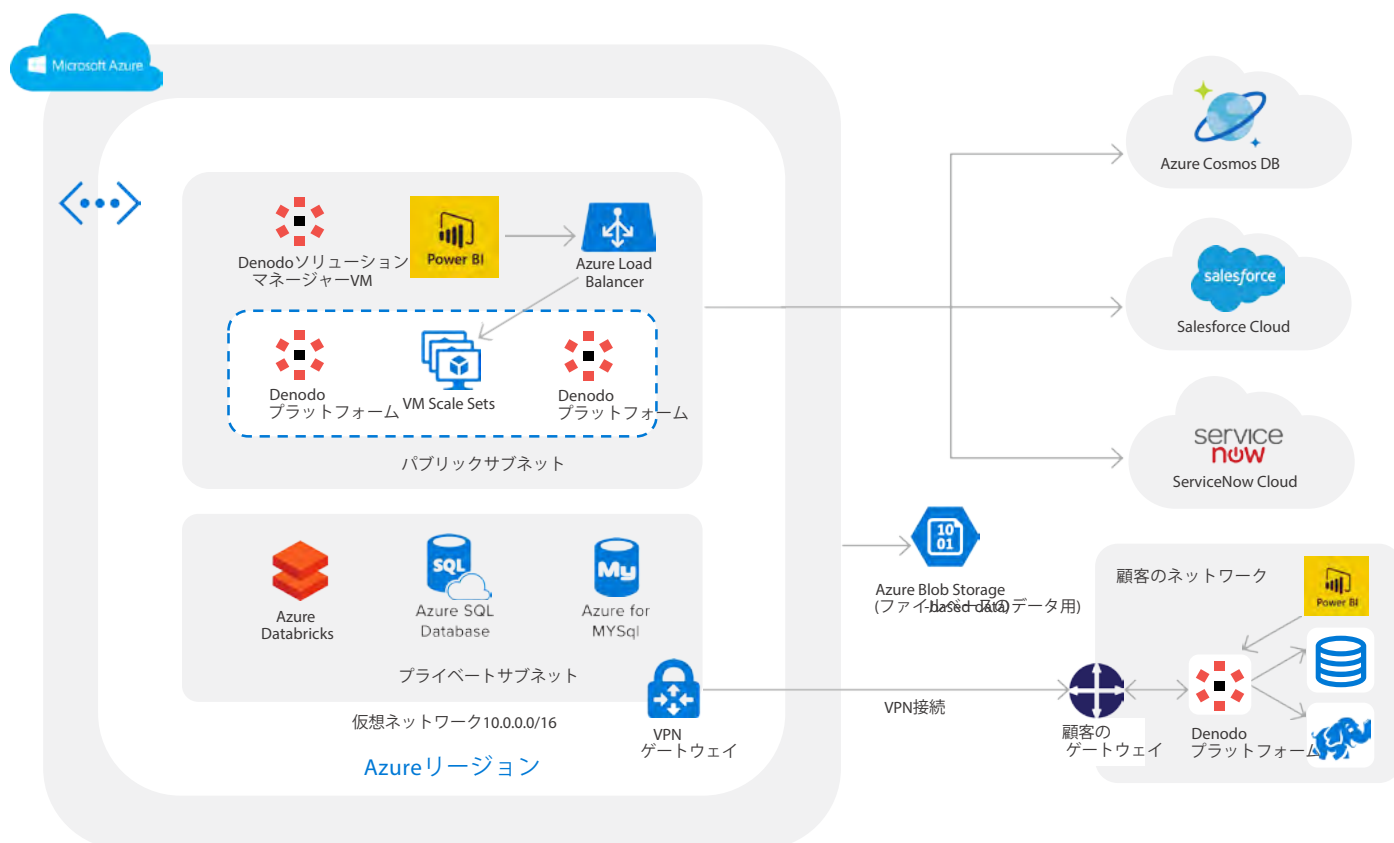
Azure用のDenodoプラットフォームの使用開始

Azure用のDenodoプラットフォームの使用をすぐに開始する方法は、主に以下の2通りあります。

1. インフラストラクチャとして使用し、クラウドへのBYOL (Bring Your Own License: ライセンス持ち込み) を活用
 - 複雑な展開に向いており、広範な設定制御が可能
 - ユーティリティプライシングには向いていないが、利用規約を柔軟にカスタマイズ可能
 - 定価が高く、クライアントによりインストールされる
2. Azure Marketplaceから提供されるサブスクリプションベースのモデル
 - 定価が低く、幅広いサイジングオプションが付属 (ローエンドの構成向け)
 - ユーザーは数分以内に使用を開始できる。Azure用の構成済みVMを提供
 - 複雑な展開は高コストになる場合もある (カスタマイズによる割引は無し)

無料のTest Driveの利用をご検討ください。Azure用のDenodoプラットフォームの設定と使い方について、あらかじめ学んでおくことができます。

以下の図は、Azure用のDenodoプラットフォームを使用して構築できるハイブリッドアーキテクチャと、すぐに使用を開始する方法を詳しく示しています。

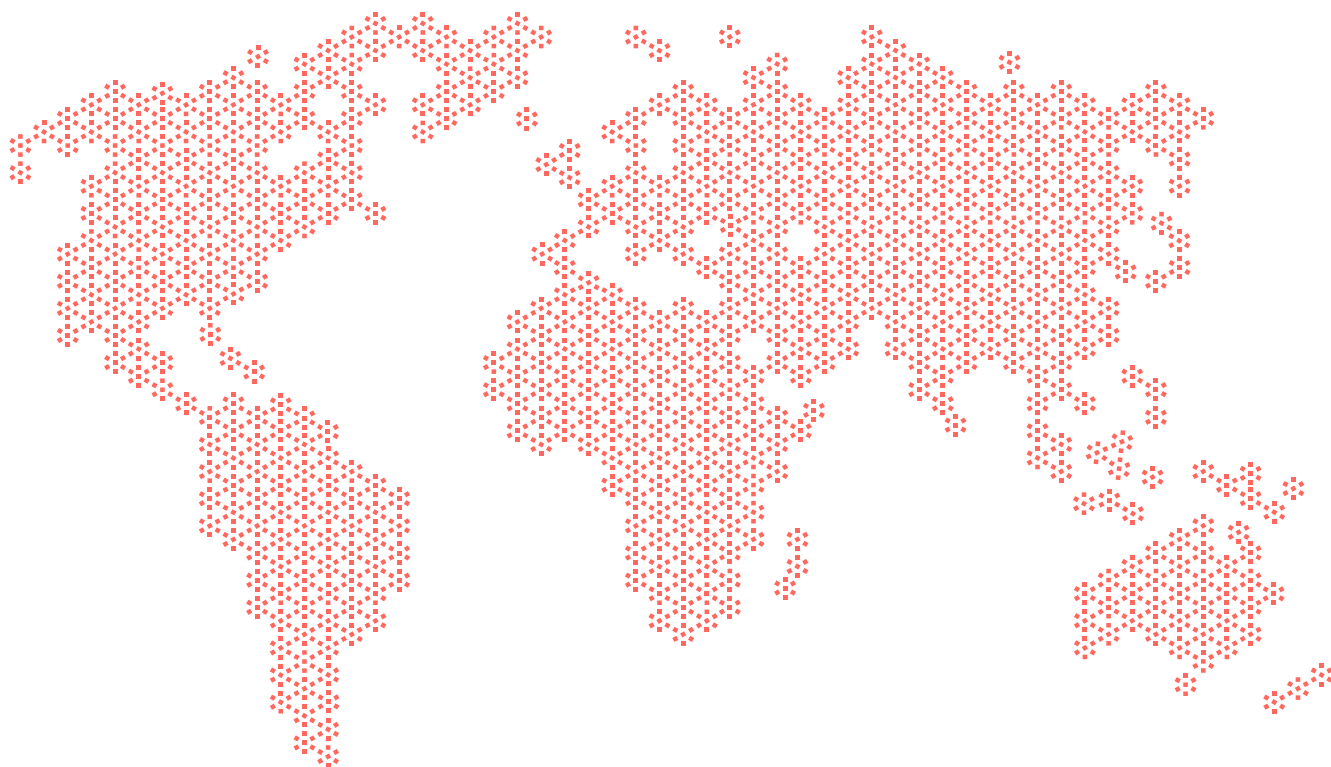


AZURE用のDENODOプラットフォームによるクラウドモダナイゼーション



TransAlta

その他...



Denodo Technologiesは、データ仮想化市場をリードする企業として、高性能で柔軟なデータ連携、データ抽象化、リアルタイムのデータサービスをエンタープライズ企業、クラウド、ビッグデータ、非構造化データなど幅広い環境に従来手法の半分のコストで提供しています。Denodoは、すべての主要な業界で顧客企業を支援し、事業の柔軟な運用やROIの大幅な向上の実現を支援しています。

ホームページ www.denodo.com | メール info@denodo.com | コミュニティ
community.denodo.com

